



ユ一キヤン通信

編集・発行
知能工作研究所
大和市内南林間2-18-25
Tel 046-277-5654

あいさつは 豊かな人間関係

目白大学 社会学部
メディア表現学科
教授 島田 治子 先生

「人間は社会的な動物である」と言われるように、人と人はつながりあって生きています。“つながる”ために大事なのが《あいさつ》です。

ところが最近では《あいさつ》のできない人が非常に多くなっています。特に自分の仲間（親しい人）以外に対する《あいさつ》が、スツと出てこないようです。

先日も、次のようなことがありました。信号待ちにしていた人たちが、青信号で一斉に横断歩道を渡り始めました。自転車に乗っている人たちもいて、対向する2台の自転車が、横断歩道のまん中でぶつかりそうになったのです。互

いの進路をふさぐような形にはなっているものの、実際にぶつかったわけではなく、どちらかが「すみません」とか「ごめんなさい」と言えば、何の問題もなく済んだことでしょう。

しかし、その2人の男性は黙ったまま、お互いの顔をキッとにらんで動かないのです。そのままなら乱闘間違いなし、という緊迫感が漂っていました。幸いしたのは横断歩道のまん中という場所。そのままにらみ合っていれば、2人も車にひかれるため、信号が黄色になったところで、しぶしぶ別れていきました。

この例のように、知らない人に対してとっさの《あいさつ》のできないのは、普段の生活で《あいさつ》が当たり前になっていないからです。みなさんのご家庭ではいかがでしょうか。

朝、起きたら「おはよう（ございます）」夜、寝る時は「おやすみ（なさい）」と言っていますか。出かける時に「行ってきます」「行ってらっしゃい」帰宅時には「ただいま」「お帰りのさい」と、親子間だけでなく、夫婦の間でも《あいさつ》しているのでしょうか。

食事の時はどうでしょう。「いただきます」「ごちそうさまでした」は、年齢があがるほど言わなくなる傾向にあります。また最近では「給食費をきちんと払っているのだから、自分の子に“いただきます”と言わせないでくれ」と抗議するモンスター・ペアレンツの例も報告されています。

この抗議は「いただきます」を「もらう」の意味に取っているから出てきたことに違いありません。

大人の知能トレーニング 出題 和田 秀巳

「概念の単位を拡散思考する」この知能因子は、創造性の能力にも大変重要な知能因子です。

「問題」制限時間3分以内にいくつ書けますか。

1. 一番初めに「あ」のつく動物。
2. 一番初めに「あ」のつく食べ物・
3. 人が作った、空を飛ぶもの。
4. 燃える液体。
5. 人が作ったものでゴルフボールより小さい物。



改訂「ビーズ通し遊び」で遊ぶ園児

しかし、食事時の《あいさつ》には、もっと深い意味があります。それは、感謝する気持ちです。料理を作ってくれた人だけでなく、肉、魚、野菜などの食材を育ててくれた人への感謝。何より命に対する感謝の気持ちが込められています。私たちは他の命を奪うことでしか生き長らえることができません。この事実に対して謙虚な気持ちを抱かせてくれるのが、食事の《あいさつ》なのです。

「ありがとう（ございます）」「ごめんなさい」「おめでとう（ございます）」など、《あいさつ》言葉はまだたくさんあります。だからこそ、日常生活の中で、習慣づけておかないと、とっさの時に出てこないのです。

今日から一つでも多くの《あいさつ》を、家族みんなですべてしていきましょう。

それが豊かなコミュニケーションの第一歩です。